

2026 年度 学修成果及び学修行動、環境に関する調査報告書

川崎医療福祉大学

FD・SD 委員会

本学の学生の学修前後の学修成果を把握し、本学の 3 つのポリシーを検証する材料とすることを目的として、2022 年度より毎年実施する記名式調査として「学修成果および学修行動、環境に関する調査」を開始した。

データの集計と基礎的分析については、FD・SD 副委員長及び調査企画室で行った。

1. 実施方法

1-1 実施対象と方法

2026 年度の在学している学部生（以下、在学生）は合計 3,408 名であった。

在学生にメールにて回答依頼を行い、WebClass を使用して、オンラインにて実施した。質問項目および簡易集計結果は巻末の資料 1 の通りである。

1-2 実施日

提出期限：2026 年 7 月 14 日（火）～7 月 31 日（金）

2. 実施結果

2-1 回収率

回答者数は 1,584 人で、回収率は 46.5%（2025 年度：56.8%）であった。学年別のデータは以下の通りであった。今年度は、昨年度と比較して大幅に回収率が下がった。

学年別回答者数：1 年次 583 人、2 年次 429 人、3 年次 308 人、4 年次 264 人

学年別回収率：1 年次 65.3%、2 年次 52.9%、3 年次 39.8%、4 年次 28.4%

2-2 学生の主観評価によるアドミッション・ポリシーの検証（質問 1）

アドミッション・ポリシーは、入学時においては本学の入学者選抜に臨むに当たって求められる人物像を示すものであり、入学後においては本学で学ぶ上での基本姿勢として身に付けておくべきものである。そのため、いずれの設問についても、レベル 4 または 5 であることが望まれる。実際の回答もレベル 4 および 5 が大半を占めているが、ごく少数ながら、低いレベルを選択した学生もみられた。また、アドミッション・ポリシーに関するすべての設問にレベル 1 と回答した学生は、昨年度に引き続き、今年度も 2 名存在した。今後、学生のアドミッション・ポリシーに対する理解を深めるとともに、医療福祉人としての意識付けをこれまで以上に強化していく必

要がある。

全てのアドミッション・ポリシーにおいて、昨年と同様にレベル5の回答が最も多かった。「⑤他の医療福祉人と連携して働くために、チームワークの能力を備えている人」については、他の項目では、レベル5の割合が5割を超えていたのに対し、この項目だけは4割程度にとどまった。この結果から、引き続き、アクティブラーニング科目やチーム医療、プレゼンテーションに関する科目の充実を図り、学生のコミュニケーション能力を一層育成していく必要性が示唆された。

2-3 学生の主観評価によるカリキュラム・ポリシーの検証（質問2、3、5）

質問2で自分の所属学科のカリキュラム（科目や科目の配置、科目の量）への満足度を確認したところ、満足が39.0%、やや満足が44.2%と合せて83.2%であり、昨年度と同様、概ね満足している状況が確認された。質問3のカリキュラムへの要望事項は、昨年度と同様、資格対策の充実と、ボランティア活動などの正課外活動への単位認定への要望が多く見受けられた。

質問5の授業の受講時間については、1週間当たり21～30時間（1日当たり概ね3～4コマ）の授業がある学生が38.3%と最も多くなっていた。これは令和6年度に文部科学省が実施した「全国学生調査」※において、2年生の最多回答であった「1週間当たり16～20時間（1日当たり概ね2～3コマ）」と比較すると、多くの科目が配置されていたが、同調査における学部分野別の回答における保健分野（看護・医療技術など）においては1週間当たり21～30時間（1日当たり概ね3～4コマ）が最多になっていたため、この分野においては標準的な科目配置であると考えられる。

2-4 学生の主観評価によるディプロマ・ポリシーの検証（質問4、6、7、8）

質問4で最も高かった項目が「4.出された課題やレポートを、良いものに仕上げようと努力している」55.6%であった。次に、「7.授業でわからなかったことは、自分で調べてみる」42.3%、「2.興味がわくかどうかにかかわらず、集中して受講している」36.7%と続いており、与えられた学びについては一生懸命に取り組む様子が示唆された。特に、「7.授業でわからなかったことは、自分で調べてみる」が昨年の38.4%から約4%増加しており、昨年までと比べて興味が湧いた講義に対するモチベーションは上がっているようである。一方、「5.予習をしたうえで毎回の授業に臨んでいる」が7.0%、「9.授業に関係する事柄を、授業時間外でも教員に質問する」8.2%、「8.授業で興味を持ったことについて、自主的に勉強する」21.0%などの低い割合で示されるように、若干の改善はみられるものの、学生の学修姿勢が受け身になっている傾向が見受けられた。後述の質問6と同様、課題とすべきであろう。

質問6は授業以外での自己学修時間を問うた質問であるが、時間数としては最も

少ない選択肢である 1 週間当たり 1～5 時間の学生が 33.6%と最多となった。「全国学生調査」※において、全体でも学部分野別でも同様に 1 週間当たり 1～5 時間の学生が最も多くを占めており、他大学においても同様の課題が存在するものと考えられる。

質問 7 では、65.7%の学生が毎週 16 時間以上の自身が自由に使える時間があり、今以上の自己学修時間の確保は可能と考えられる。単位制度の実質化を図る上でも学生の自己学修時間増加に向けて更なる大学内学修環境の整備や、予習・復習教材の指示、提供等の改善に向けた施策が必要である。

質問 8 では、ディプロマ・ポリシーに定められた養成人材像に対する現時点での自身の達成状況について 5 段階で自己評価させた。全てのディプロマ・ポリシーについて、レベル 4 と回答した学生が最も多い状況ではあるが、元来ディプロマ・ポリシーは卒業時に充足を目指すものであるため、仕方ない側面もある。

2-5 学生からの環境整備への要望事項（質問 9、10、11）

質問 9 では、学生が自己学修する場所を確認した。自宅での自己学修を中心としながらも、大学図書館や各階ラウンジなどの大学内施設の利用が多く見受けられた。

質問 10 の施設整備に関する要望では、「静かに学修できるスペースのさらなる拡充」が 48.0%で最も多く、次いで「飲食可能な勉強ができるスペースの設置」が 41.7%、「空調の改善」が 37.2%であった。本学には 5 階 LSC や 8 階資格対策演習室など、比較的余裕のある学修スペースがあるものの、質問 9 では利用者が少なかった。このため、既存施設の場所や利用方法を周知するとともに、利便性の高い場所への学修スペースの確保や、飲食の可否など利用目的に応じたスペースの整備を検討する必要がある。また、学生ラウンジの拡充、遅い時間まで利用できる自習スペースやカフェの設置についても、昨年度と同様に一定の要望がみられた。

質問 11 の自由記述では、Wi-Fi 環境の改善を求める意見が最も多く、接続の不安定さや通信速度の遅さによって、授業や学修に支障が生じているとの指摘があった。また、教室や図書館、ラウンジなどの空調改善、自習室や図書館の利用時間延長、土日・祝日にも利用できる学修環境の確保を求める声も多かった。このほか、カフェや売店、食堂の充実、休憩スペースの整備、トイレ設備、コンセント、給水機などの改善も挙げられており、学生が安全かつ快適に学修・生活できる環境を総合的に整備していく必要がある。

自由記述を表記ゆれや類似する内容をまとめた上でワードクラウド化し、要望の度合いを可視化すると以下ようになった。

Wi-Fi環境

空調・冷房

学習スペース

ラウンジ

図書館

利用時間延長

照明

害虫対策

仮眠スペース

コンセント

カフェ

学食・食堂

売店・食料品

トイレ設備

給水機

ゴミ箱

AED点検

3. まとめ

今年度も本調査を通じて、本学の3つのポリシーに基づく教学のPDCAサイクルを推進するための貴重なデータを収集することができた。特に、教育の受益者である学生の主観的な視点から、3つのポリシーに対する認識や達成度、学修状況を定量的に把握する機会を継続的に設けることは、本学の教育活動の検証と改善に大きく寄与すると考えられる。

今年度の調査からは、学生が授業や課題に真剣に取り組んでいる一方で、予習・復習、積極的な質問、自主的な学修など、主体的に学ぶ姿勢には引き続き課題があることが示された。また、アドミッション・ポリシーに関する自己評価は全体として高かったものの、チーム医療に必要なコミュニケーション能力やチームワーク能力に課題を感じている学生も一定数みられた。アクティブラーニング科目の推進や、基礎教育科目のカリキュラム改正におけるコミュニケーション関連科目の充実など、大学としての取り組みを継続するとともに、学生の特性や時代の変化を踏まえ、自己効力感や成長の実感につながる学修機会をさらに充実させる必要がある。

シラバスの内容整理や教員の意識改革などにより、教学改善は着実に進んでいると考えられる。一方、チーム医療を担う医療福祉人としての能力を育成する科目の充実や、授業時間外の学修を促すことによる単位制度の実質化には、なお一層の取り組みが求められる。また、施設・設備面では、静かに学修できる場所や飲食可能な学修スペースの確保、既存の自習スペースの周知と有効活用に加え、Wi-Fiや空調の改善、図書館等の利用時間の拡大、カフェや学生食堂の充実など、学生の自主的な学びと快適な学生生活を支える環境を総合的に整備していくことが重要な課題である。

※ 文部科学省 令和 6 年度「全国学生調査（第 4 回試行実施）」の結果について
2025/9/30 参照

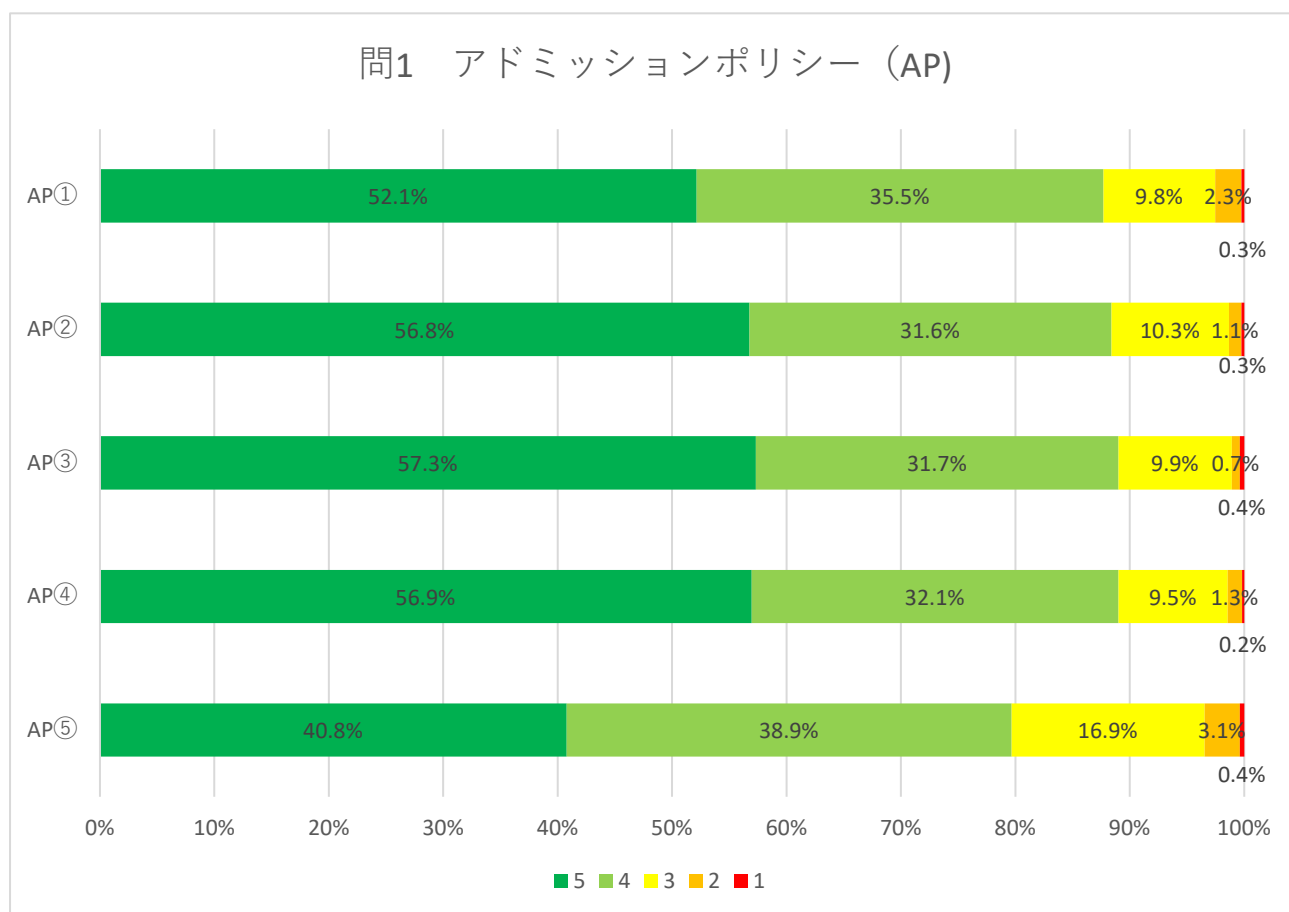
https://www.mext.go.jp/content/20250930-koutou02-000001987_1.pdf

※全国の大学学部 2 年生と 4 年生を対象にした調査

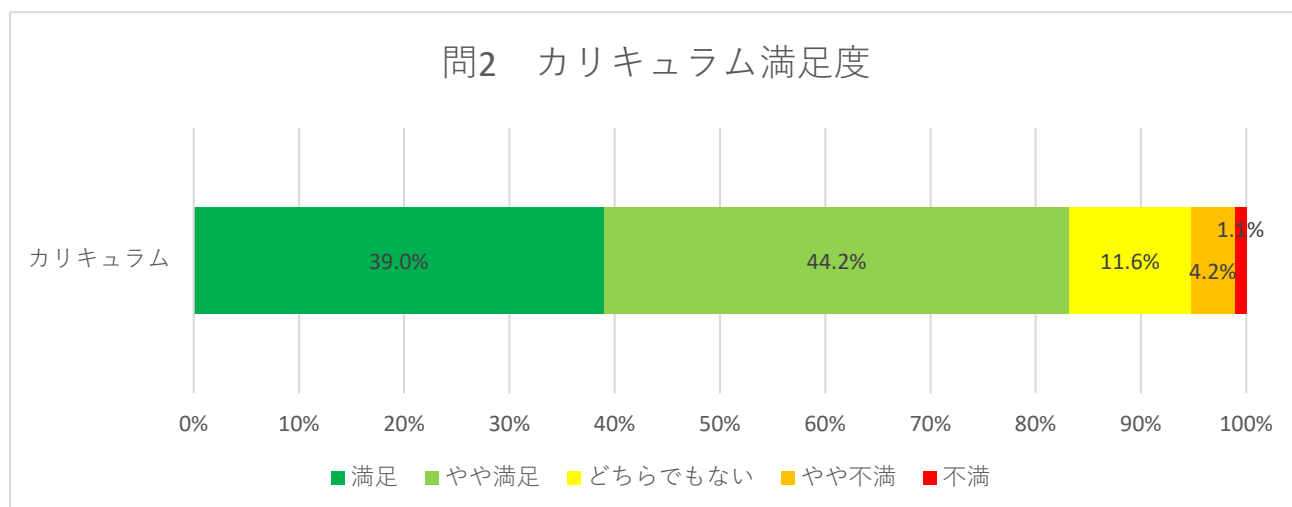
質問 1. 川崎医療福祉大学では以下の学生を入学者として求めていると同時に、大学が養成しようとしている人材の基本姿勢として定めています（アドミッション・ポリシー）。あなたの現時点での学びへの姿勢について 5 段階で自己評価してください。

- ① 医療や福祉の分野で活躍するために、その知識と技術を修得する意欲のある人
- ② 病気や障がいのある人の気持ちを理解するとともに、その苦悩に共感できる人
- ③ 社会人としての良識や倫理観を身につけ、社会に貢献したいと願っている人
- ④ 他者の言葉に耳を傾け、適切に説明できるというコミュニケーション能力を持つために努力する人
- ⑤ 他の医療福祉人と連携して働くために、チームワークの能力を備えている人

※レベル 5 が最もポジティブで、レベル 1 が最もネガティブな自己評価を示す

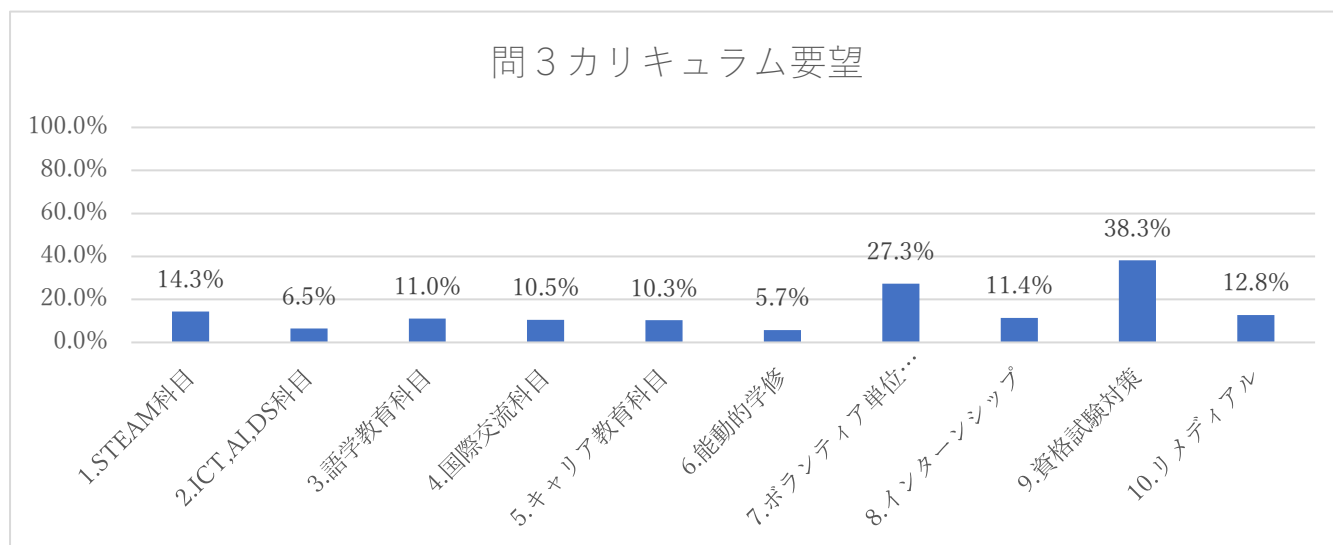


質問 2. 自分の所属学科のカリキュラム（科目や科目の配置、科目の量）に満足していますか。



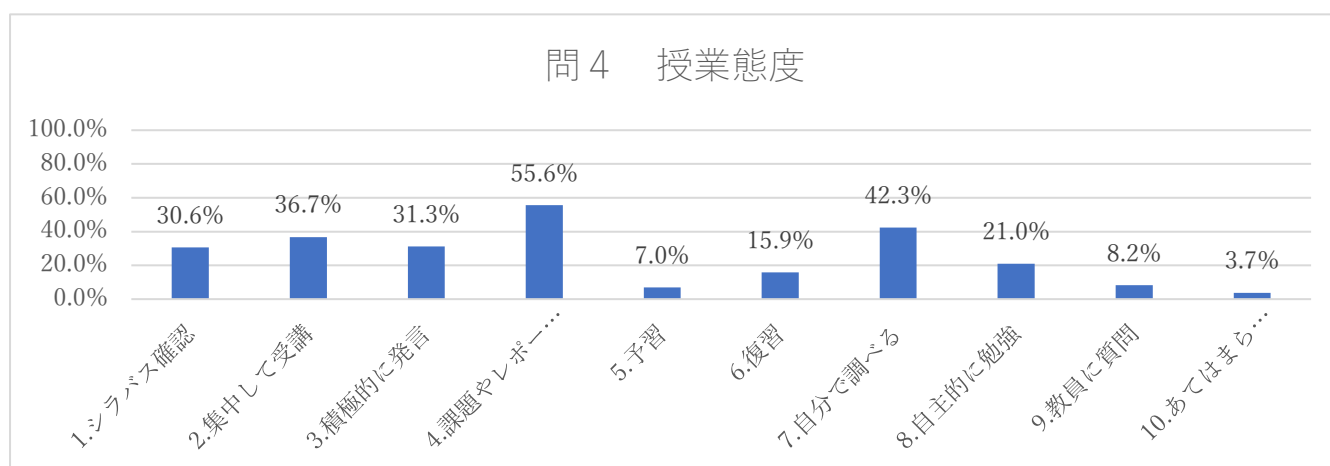
質問 3. カリキュラムに対して要望はありますか。あてはまるものすべてを選択してください。

1. 基礎教育科目への S T E A M 科目（科学／技術／工学／芸術／数学）の充実
2. I C T ・ A I ・ 数理 ・ データサイエンス科目の充実
3. 基礎教育科目への語学教育科目の充実
4. 短期留学を含む国際交流科目の充実
5. キャリア教育科目の充実
6. 能動的学修授業（アクティブラーニング）の充実
7. 学外活動（ボランティア等）単位認定
8. インターンシップの単位認定、科目設定
9. 資格試験対策の充実
10. リメディアル教育（不足している基礎学力を補うために行われる教育）の充実



質問4. 授業に対して、どのような態度で取り組んでいますか。あてはまるものすべてを選択してください。

1. 受講の際に、前もってシラバスを確認している
2. 興味がわくかどうかにかかわらず、集中して受講している
3. グループワークやディスカッションなど自分の意見を述べる機会がある場合は、積極的に発言している
4. 出された課題やレポートを、良いものに仕上げようと努力している
5. 予習をしたうえで毎回の授業に臨んでいる
6. 授業が終わったらそのつど復習している
7. 授業でわからなかったことは、自分で調べる
8. 授業で興味をもったことについて、自主的に勉強する
9. 授業に関係する事柄を、授業時間外でも教員に質問する
10. 上記にあてはまるものはない



質問5. 授業の受講時間※は、1週間（7日間）でどれくらいですか。※単位化された全ての授業。講義、演習、実験、卒業研究、実習、学外実習等の正課授業。

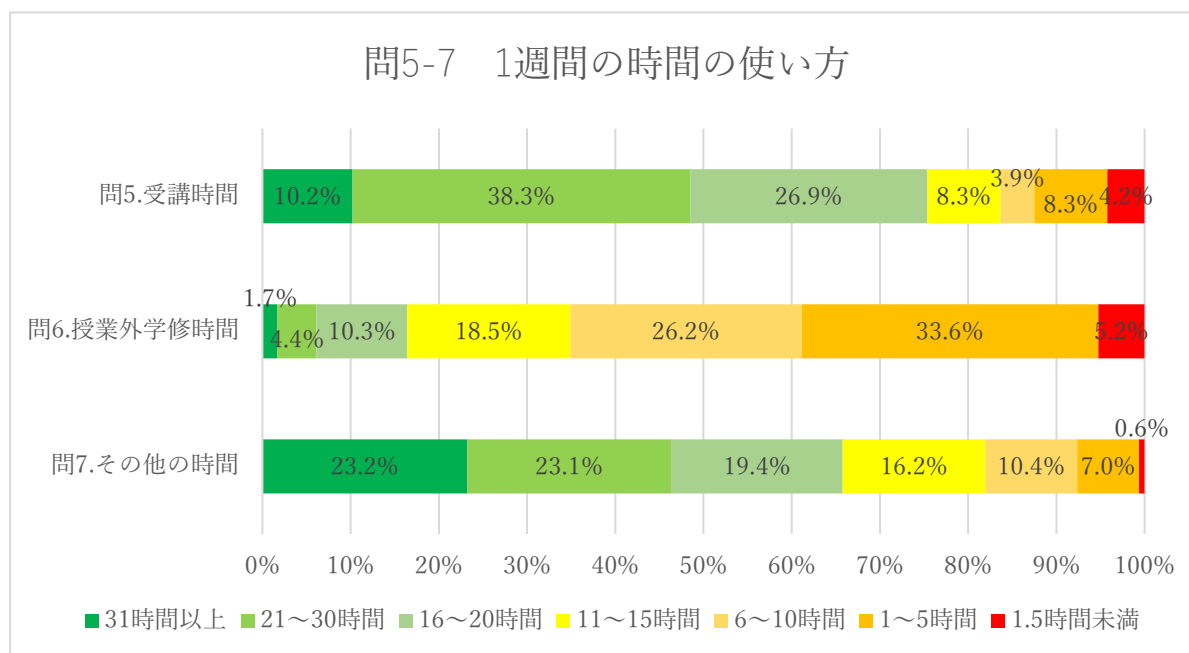
1. 31時間以上（月1時限～金3時限まで殆どの全てのコマで授業が有る）
2. 21～30時間（1日当たり概ね3～4コマの授業が有る）
3. 16～20時間（1日当たり概ね2～3コマの授業が有る）
4. 11～15時間（1日当たり概ね1～2コマの授業が有る）
5. 6～10時間（1日当たり概ね1コマの授業が有る）
6. 1～5時間（1週間のうち授業が無い日が3日以上有る）
7. 1.5時間未満（1週間のうち殆どの日が授業が無い）

質問6. 授業時間以外でのふだんの自己学修時間は、1週間（7日間）でどれくらいですか。（定期試験用の自己学修ではなく、ふだんの自己学修についてお答えください。）

1. 31時間以上（毎日概ね4.4時間以上を自己学修に充てている）
2. 21～30時間（毎日概ね3～4.3時間未満を自己学修に充てている）
3. 16～20時間（毎日概ね2.3～2.9時間未満を自己学修に充てている）
4. 11～15時間（毎日概ね1.6～2.2時間未満を自己学修に充てている）
5. 6～10時間（毎日概ね50分～1.5時間未満を自己学修に充てている）
6. 1～5時間（毎日概ね10分～45分未満を自己学修に充てている）
7. 0時間（全くしない）

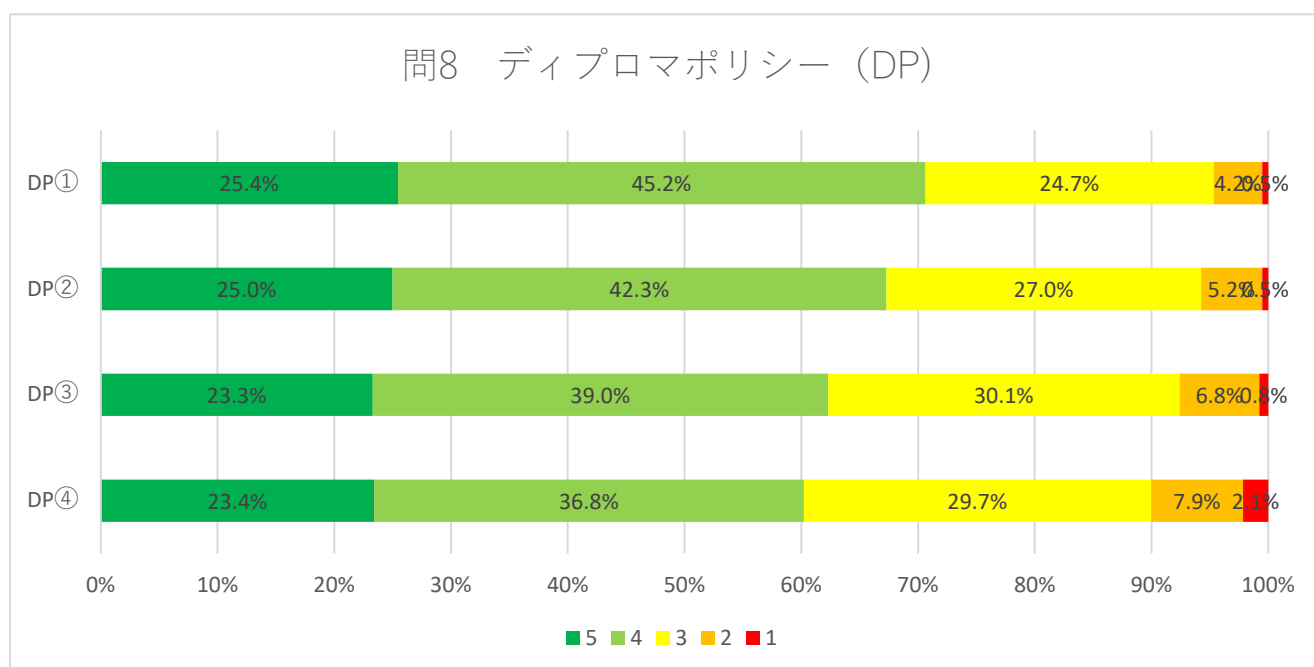
質問7. 睡眠時間以外で自分がアルバイト・部活・趣味・休養等に自由に使うことができる時間は、1週間（7日間）でどれくらいですか。

1. 31時間以上（毎日概ね4.4時間以上を自由に使うことができる）
2. 21～30時間（毎日概ね3～4.3時間未満を自由に使うことができる）
3. 16～20時間（毎日概ね2.3～2.9時間未満を自由に使うことができる）
4. 11～15時間（毎日概ね1.6～2.2時間未満を自由に使うことができる）
5. 6～10時間（毎日概ね50分～1.5時間未満を自由に使うことができる）
6. 1～5時間（毎日概ね10分～45分未満を自由に使うことができる）
7. 0時間（全く自由な時間が無い）



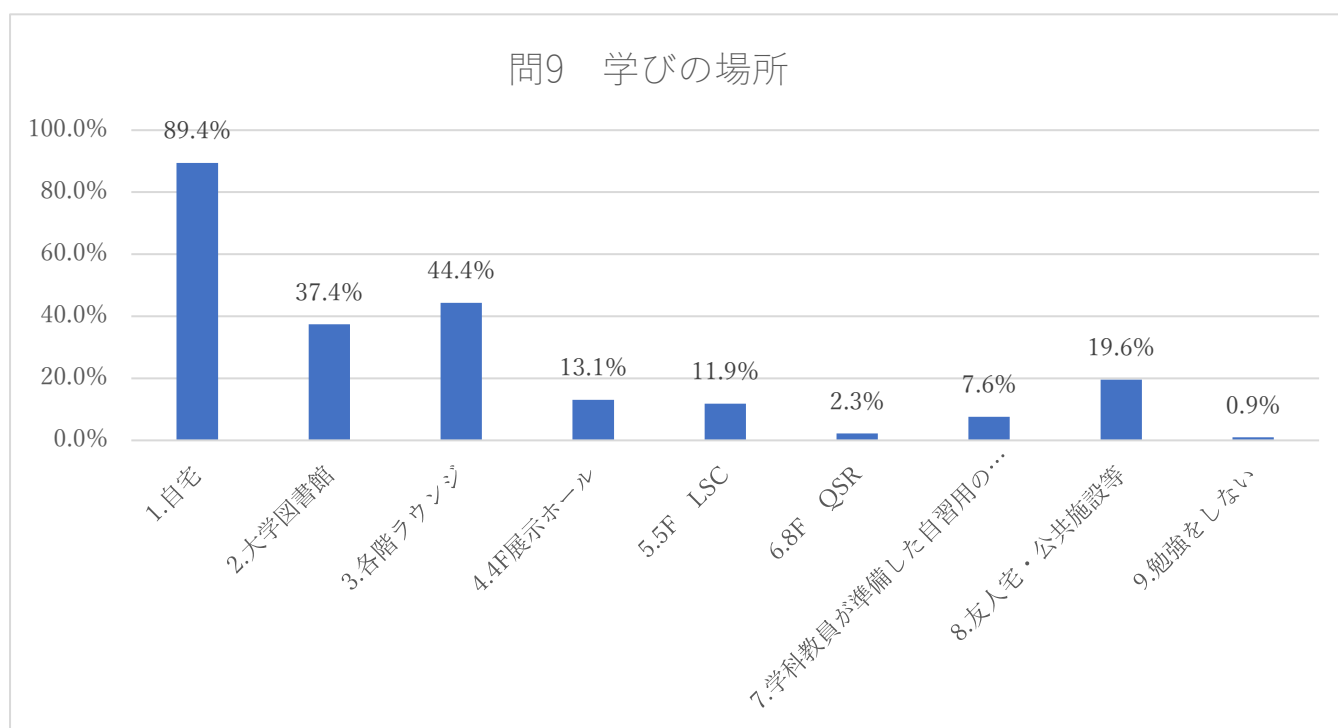
質問 8. 大学が養成しようとする人材像（ディプロマ・ポリシー）は以下のとおりですが、現時点での自身の達成状況について 5 段階で自己評価してください。

- ① 幅広い教養、豊かな感性、人間理解、並びに国際的コミュニケーション能力を身につけるとともに、一人の人間として、他者と関わるための豊かな心を持ち、医療福祉社会の担い手と成り得るための体力を身につける。
- ② 豊かな人格形成の基本と専門領域へつながる基礎的な学力を養うとともに、専門領域を超えて問題を探究する姿勢を身につける。
- ③ 医療福祉という総合的な視点を持ち、データとエビデンスに基づく論理的思考力の修得を通して、物事の本質を見抜き、医療福祉分野における多様な課題を解決し得る判断力を養う。
- ④ 4 年間にわたる体系的な学修を通して、専門的な医療福祉人に必要な高いレベルの専門的学力や技術力、さらには、スペシャリストとしての指導力を身につける。



質問 9．授業時間以外での自己学修は、どこでしますか。該当する場所すべてを選択してください。

- 1．自宅
- 2．大学図書館
- 3．各階ラウンジ
- 4．4 F 展示ホール
- 5．5 F L S C （ラーニングサポートセンター）
- 6．8 F 資格対策演習室（8102、8103）
- 7．学科教員が準備した自習用の講義室・実習室
- 8．その他（友人宅・公共施設など）
- 9．授業時間以外の勉強はしていない



質問10. 大学の学修環境もしくは学生生活環境整備への要望はありますか。あてはまるものすべてを選択してください。(2025 年度環境整備実績：グループワークを可能とする設備（プロジェクター、ホワイトボード、移動可能机等）を備えた自習スペースの設置、大学内の自習スペースをまとめた Web サイトの公開、Wi-Fi 環境の改善)

1. 静かに学修できるスペースの更なる拡充
2. 現在よりも遅い時間まで自習で使うことができるスペースの整備
3. 飲食可能な勉強ができるスペースの設置
4. 学生ラウンジ等のフリースペースの拡充
5. コーヒーショップ等のカフェスペースの設置
6. 電子機器の充電スペースの更なる拡充
7. 食事スペースの拡充（食堂の増席、店舗の新設等）
8. 店舗の平日営業時間の延長
9. クラブ・サークル活動のための環境整備
10. 空調の改善
11. 設備・備品について
12. その他

